



ICTニュース

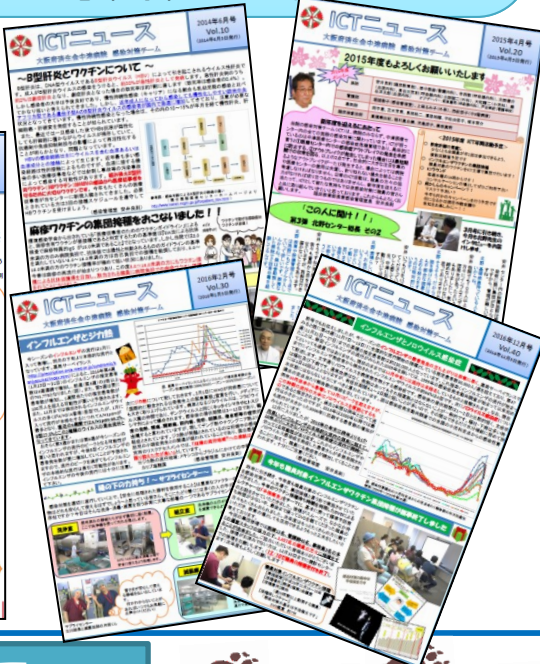
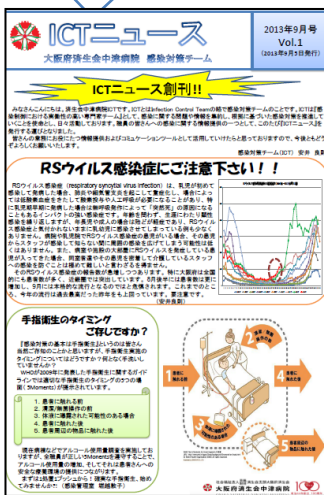
大阪府済生会中津病院 感染対策チーム

2017年10月号
Vol.50
(2017年10月5日発行)

祝 ICTニュース第50号発行！！

2013年9月の創刊号発行から、毎月5日にお届けしてきましたICTニュースも、今回で**記念すべき第50回目の発行を迎えました～**！いつも発刊を楽しみにしてくださっている(楽しみにしてくださっていると信じています 笑)皆さんのおかげだと思っております。今後ともICTニュース、それから感染対策チームの活動にご協力のほどよろしくお願いたします。
感染対策チーム一同

記念すべき創刊号



4種ワクチン接種第1弾終了

全職員を対象とした**4種ウイルス疾患(麻疹・風疹・ムンプス・水痘)**の抗体価検査導入後5年が経過し、今年改めて5年以上採血実施のない職員を対象に採血を実施。**採血結果に基づきワクチン接種を行いました。**

麻疹・MRワクチンが入手しにくい状況を受け、2期に分けての実施となりましたが、まずは**第1弾として9/7～12の5日間で316名**を対象に無事接種を終了しております。第2弾は11月末～12月上旬に実施予定です。

今年採血しなかった方、ワクチン接種該当者ではなかった方も、自身の抗体価をしっかり把握しておくことが重要です。ICTメイトで確認できますので、各自でしっかり管理していただきますようお願いいたします。

ICTメイトトップページの「抗体価確認」をクリック

抗体価が表示されます

抗体検査	検査日	検査結果	基準値
麻疹	2017/07/03	21.7	16.0
風疹	2017/07/03	18.8	8.0
流行性耳下腺炎	2017/07/03	9.3	4.0
水痘	2017/07/03	9.4	4.0
抗体価			
T-SPOT			

梅毒について

本号では**梅毒**について記述します。梅毒は、梅毒トレポネーマと呼ばれる螺旋状のグラム陰性菌(スピロヘータ)を病原とする感染症です。本菌は低酸素状態でしか生存できないため、感染経路は限定され、大部分は排菌している感染者との粘膜の接触を伴う性行為や疑似性行為によって感染していきます。他に感染した妊婦の胎盤を通じて感染する経胎盤感染があり、先天梅毒の原因となります。

梅毒の症状・病期について記載します。『①**早期顕症梅毒第Ⅰ期**：3～6週間の潜伏期間を経て、感染局所に初期硬結、硬性下疳(無痛性潰瘍)が形成されるが、無治療でも数週間で軽快、②**早期顕症梅毒第Ⅱ期**：第Ⅰ期症状消失後、4～10週間の潜伏期を経てバラ疹と呼ばれる全身性の発疹、粘膜疹、扁平コンジローマ、梅毒性脱毛等の症状が出現。無治療でも数週間～数か月で軽快していく、③**潜伏梅毒**：血清反応陽性で顕性症状が認められない状態。第Ⅰ期と第Ⅱ期の間や第Ⅱ期の症状消失後の状態を主に指す、④**晩期顕症梅毒**：無治療の約1/3が、数年～数十年の潜伏梅毒の期間を経て晩期症状を呈する。非特異的肉芽腫病変(ゴム種)が皮膚、骨、内臓等に発生し、心血管梅毒や進行性麻痺、脊髄痙、痴呆等の神経梅毒に進展していく。』

梅毒を取り上げたのは、**東京、大阪等の大都市を中心に患者数が急増**してきているからです。2009年の年間患者数は621でしたが、2016年は4518名と7倍以上に増加し、2017年はこのままでは年間5000人を超えると予想されます(図)。この急増の中心は梅毒という疾患名すら聞いたことが無いような20歳代前半の女性であり、今後も患者数は増加し続けていくと思われます。若年女性での患者数が増加すると、先天梅毒児が増加してくることが危惧されています。ペニシリンの発見と治療応用によって、15世紀以降世界中で猛威をふるった梅毒は激減し、多くの医療従事者にさえ忘れ去られた感染症になっていました。梅毒は再興感染症であると認識し、まずは医療専門職者が梅毒に対する正確な知識と情報を持つことが重要です。(感染管理室 安井良則)

厚生労働省
性感染症 啓発ポスターより



梅毒の報告数の年次別推移(2009年～2017年第37週まで)

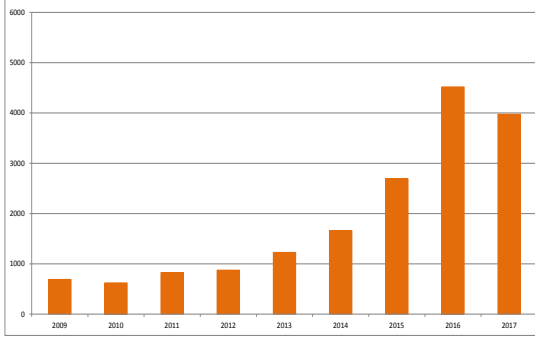


図. 日本国内の梅毒の報告数の年次別推移(2017年は第37週まで)